

厚真町における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

厚真町は南北に細長く、市街地が2つ存在するほか、郊外に集落が点在する構造となっており、移動手段が確保できない交通空白地帯が存在し、また、高齢化の進展や核家族化の進行により、バス利用が困難となっている高齢者の増加や外出手段の選択肢が少ないことなどの問題が顕在化していた。さらに、買物や通院等の日常生活に必要な移動について、隣接都市である苫小牧市や千歳市への移動も多くなっており、地域間幹線バス路線との接続改善も課題となっている。

地域公共交通の現況

- ・JR日高本線（浜厚真駅）
- ・あつまバス（株）（9路線）
- ・道南バス（株）（町内経由3路線）
- ・循環福祉バス（5路線）
- ・スクールバス（7路線）

生活交通確保維持改善計画の目標

目標

循環福祉バス（デマンド型乗合タクシー）利用者を6,000人以上とする。

効果

町内における公共交通を維持することにより、高齢者等の買い物・通院等の生活に係る移動を確保することができる。地域間幹線系統との接続により広域的な移動を支援することができる。

協議会開催状況

○令和2年6月25日 第31回協議会を開催

【主な協議事項】

- ・令和3年度地域内フィーダー系統確保維持計画について
- ・地域公共交通計画策定について ・専門部会の設置について

○令和2年8月3日 第1回専門部会を開催

【主な協議事項】

- ・利用実態および住民ニーズ調査について

○令和2年9月23日 第32回協議会を開催

【主な協議事項】

- ・自家用有償運送の更新登録申請について

○令和3年1月15日 第33回協議会を開催

【主な協議事項】

- ・令和2年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

令和2年度事業概要

町内全域を5系統（5地域）で、交通不便地域と中心市街地及び地域間幹線系統（苫小牧線・千歳線）を結ぶデマンド型運行を15人乗車両で行う。

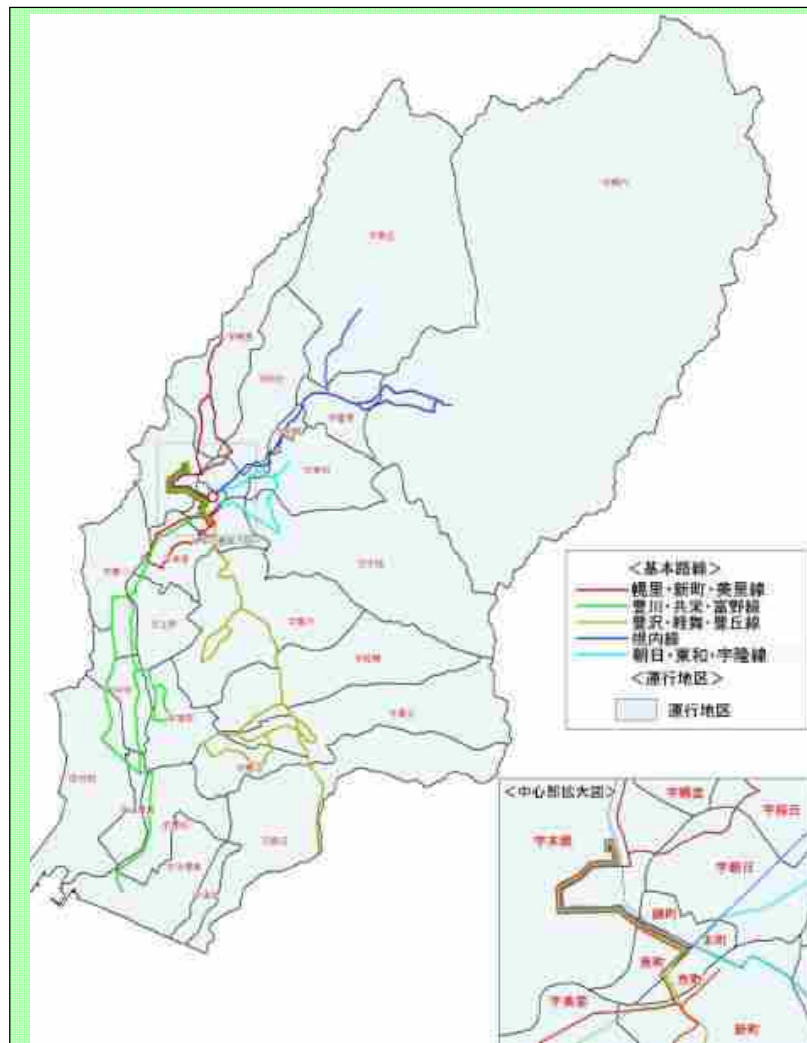
5系統 ①幌内線 ②新町・美里線 ③朝日・東和・宇隆線 ④豊沢・軽舞・豊丘線 ⑤豊川・共栄線

令和2年度事業の実施状況

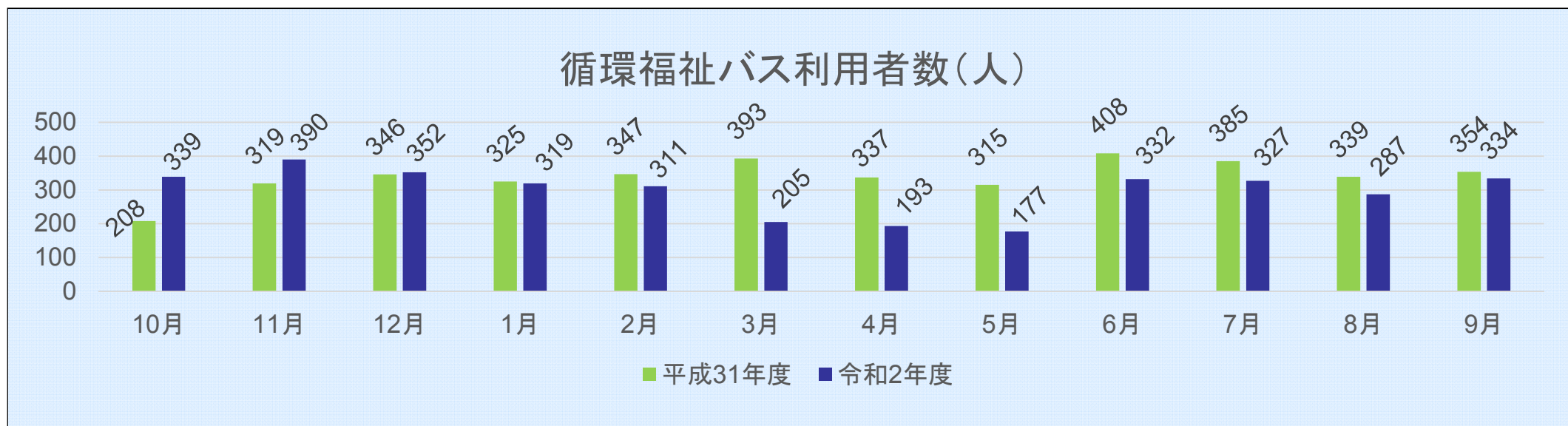
1) プロセス、創意工夫

令和2年4月に厚真町公共交通ガイドブックを全戸に配布し、循環福祉バス「めぐるくん」の利用方法などを周知をした。

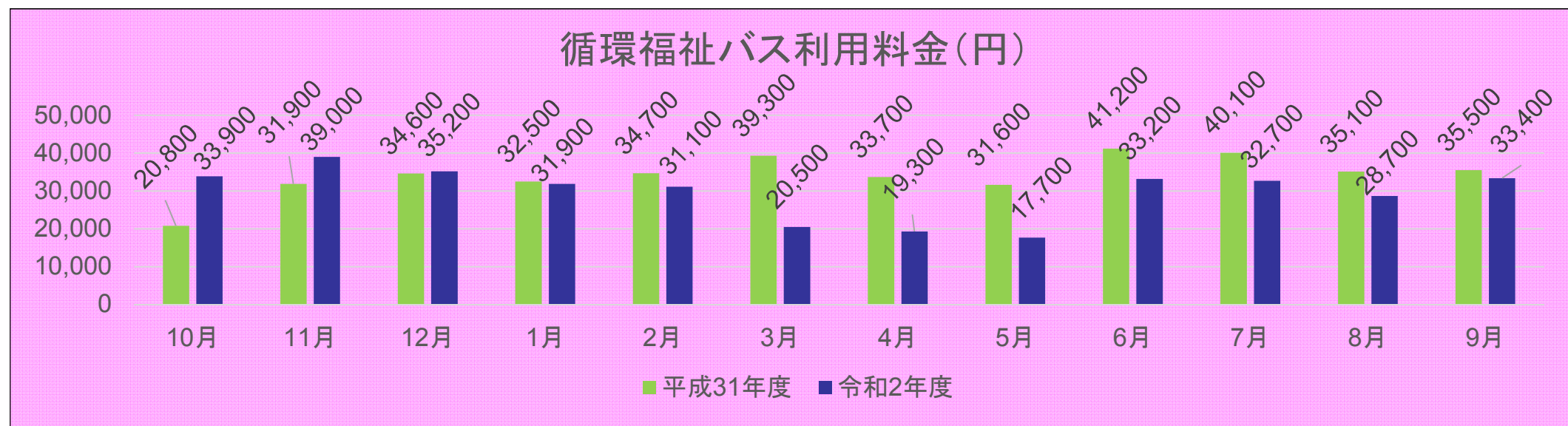
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

5系統

- ①幌内線 月～土曜日 1日3回運行(311日)
- ②新町・美里線 月～土曜日 1日3回運行(311日)
- ③朝日・東和・宇隆線 月～土曜日 1日3回運行(311日)
- ④豊沢・軽舞・豊丘線 月～土曜日 1日3回運行(311日)
- ⑤豊川・共栄線 月～土曜日 1日3回運行(311日)

予約時間 午前8時から午後7時まで

事業計画は計画どおり適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

デマンド型乗合タクシーの利用目標者数は、年間6,000人に対し、利用実績は、年間3,566人(上半期1,916人、下半期1,650人)であり目標に対し59.4%の達成率であった。また、前年度の利用実績4,076人と比較すると510人の減少となっている。

利用者数が減少した要因には、平成30年9月の震災の影響により利用者が仮設住宅など市街地への生活拠点の移動があったことと、新型コロナウイルス感染症による外出自粛が考えられる。

7) 事業の今後の改善点

交通不便地域の解消のため、路線ごとの運行形態の改善と利用促進に向けた取り組みを実施する必要がある。

震災による生活拠点の移動によりニーズが大きく変化していることから、特に高齢者への聞き取り等を実施し、現在のニーズの把握とそれに合わせた運行体制の構築を検討する。

また、料金については、行政の財政的負担が増大する中、将来にわたり公共交通を維持・確保する観点から慎重に検討を行う。

利用促進についても、広報誌以外についても積極的にPR活動が続けることとする。

新型コロナウイルス感染症は今後も影響すると想定されるが、車内消毒等の対策を徹底していることを周知し、利用に対する不安の軽減を図っていく。

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和3年度分と併せて評価)